

科目名	小児看護学実習 Pediatric Nursing Practice		担当教員 (研究室番号)	前田 貴彦 (206) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	3年次後期	科目区分	専門科目・生涯看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	2(60)	授業形態	実習	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	小児看護の対象となる人の身体・精神・社会的特徴を理解し、その人がもつ健康問題に応じた看護を実践するための能力を養う。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象となる小児と家族の特徴について述べるまたは記述することができる。</li> <li>2. 小児を取り巻く専門職者の役割について説明することができる。</li> <li>3. 健康問題をもつ小児と家族への看護過程を展開し、必要な看護を実践することができる。</li> <li>4. 健康問題をもつ小児と家族への看護実践を通して明らかとなった自己の課題について述べるができる。</li> </ol>											
成績評価方法(基準)	実習内容、実習記録、実習への取り組み状況により総合的に評価する。											
再試験の有無と基準等	「実習の出欠席および追実習に関する取扱要領」の第4条の記載される理由による1/4以上を超える欠席の場合に、追実習を認めることがある。											
教科書	特に指定しない。講義で配布した資料 等											
参考書等	及川郁子監修：病とともに生きる子どもの看護、メジカルフレンド社 石黒彩子・浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程 第2版、医学書院 その他、適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	主に急性疾患、慢性疾患をもつ子どもを受け持ち看護過程の展開を行う。そして、各自が担当する子どもと家族に対し必要な看護を考え、自ら実践する。また、実習では学生が運営するカンファレンスや事例検討を実施する。実習では、自己学習は必須となるためしっかりと取り組むこと。子どもと家族の命に関わる実習であることを各自が理解し、看護学生としての自覚と責任をもって実習に取り組むこと。											
備考	実習では小さな体で病と闘う子ども達が入院体験を前向きに捉えられ、一日も早く元気になれるよう皆さんの力を子どもとその家族に注いであげてください。皆さんもきっと子ども達からたくさん元気と力、そして笑顔ももらえます。小児看護の楽しさ魅力を一緒に感じましょう。											
<b>学 習 内 容</b>												
<p>実習期間 2週間（保育園での実習1週間、病院での実習1週間）</p> <p>実習方法 実習前：全体オリエンテーションおよびグループ別オリエンテーションを受ける。 保育園実習：担当クラスの子どもの日常生活や遊びの援助を行う。 病院実習：実習期間を通し入院中患児を1名以上受け持ち、看護過程を展開し、必要な看護を実践する。</p> <p>保育園での主な実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期・幼児期の健康な子どもの日常生活援助</li> <li>・乳児期・幼児期の健康な子どもの遊びの援助</li> <li>・カンファレンス</li> </ul> <p>病院での主な実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院実習初日：実習施設別オリエンテーション（施設概要、病棟概要等）、受け持ち患児の決定</li> <li>・受け持ち患児決定後：受け持ち患児と家族についての情報収集、看護問題の抽出、看護目標設定と具体策の検討、具体策の実施と評価、カンファレンスや事例検討</li> </ul> <p>実習場所：津市内の保育園 独立行政法人国立病院機構三重病院 日本赤十字社 伊勢赤十字病院 三重県立総合医療センター</p> <p>※詳細については「実習要項」参照</p>												
<b>学 習 課 題</b>												
<p>事前課題：小児の解剖生理、小児各期の成長・発達の特徴、ピアジェの認知発達理論、子どもの病気の捉え方、子どもおよび家族とのコミュニケーションのとり方、基本的な生活習慣への援助方法、遊びの目的と遊びへの援助方法、小児のフィジカルアセスメント、身体を観察と計測方法について各自事前学習しておくこと。</p> <p>事後課題：実習記録を指定の期日までに提出する。</p>												
<b>実務経験を活かした教育の取組</b>												
・担当教員全員、看護職として小児看護等の臨床経験を有する。担当教員は看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。												